

常照

第853号

本願寺小樽別院

二月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期 二月七日（金）～十一日（火）

安芸教区 沼田組 法隆寺

講師 森 岡 恵 隆 師

○後期 二月十三日（木）～十六日（日）

北海道教区 後志組 照覚寺

講師 佐々木 法 雨 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時（法要終了後）～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院ください。
席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

仏事には一定の決まりや作法がつきものになっていきます。

「そんな形にこだわらなくても、心がこもっていれば良いのではないか」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、「信は莊嚴（しようごん）から」という言葉もありますので知らないよりは、知っていた方がよろしいと思います。ここで少しご紹介させていただきます。

お仏壇

皆様のお宅には、お仏壇をご安置されていらっしゃるでしょうか？

最近の家には和室や仏間が無いために、お仏壇をご安置できない、と聞きますが、この頃のお仏壇は昔ながらの金仏壇ではなく、洋室にも違和感なくご安置できるデザインのものも出てきました。また、各ご家庭にご安置するのではなく、実家にあ

るからご安置していないご家庭も多いのではないのでしょうか。

お仏壇は、今生きている家族の誰かがなくなつて初めて必要になるものであり、ご先祖様にしても、親戚の誰か一人がみていればそれで良い、といった考えをお持ちの方も多いかとおもいます。

お仏壇は文字通り仏様（阿弥陀如来）をご安置するところです。

ご家族でお仏壇の前でお念仏することによって、心豊かな家庭生活につながるでしょうから「実家にあるから…」とか「誰かがみてるから…」ではなく、独立したご家庭ならば、お仏壇をご安置するようにいたしましょう。

灯明の意味

ローソクに火を灯すのはなぜでしょう？。「お仏壇の中を明るくする

為」や「お経を読むときの明かり」とお思いの方が多くと思います。莊嚴の一つ一つには意味が込められています。灯明には二つの意味が込められております。

一つ目は「光」です。周囲を明るく照らす光は、阿弥陀如来の智慧の光を表しております。私の迷いの闇をくまなく照らして、真実へ向かわしめる智慧の光明です。

二つ目は「熱」です。阿弥陀如来の大慈悲のお心を表しています。このように莊嚴の意味を知っていると、ローソクの火がこれまで以上に感慨深いものになりませんか？

お香の意味

豊かなよい香りのお香は、私たちの心身を落ち着かせてくれることから、古来より仏教以外にも儀式・祭事で用いられてきました。

仏教では、仏様に礼拝する際に、お香を焚くことで、お参りする人々の心と体が清められ、またその香りが部屋の隅々まで行き渡り、すべてに平等に接するという御仏の大慈悲心を表しているとされています。

「お香の煙は仏様のごちそうだから、お香をお供えする」とも聞いたことがあります。阿弥陀如来の極楽浄土を表現するためにも、燃香やお焼香をします。阿弥陀如来が極楽浄土をお作りになられた時に四十八の誓願を立てられた中の三十二番目に「私が仏になる時には、極楽浄土の建物・池・草木など万物を無量の宝石で飾り、数多の香を醸し出す。その香りはあらゆる世界に広がり、菩薩が仏道に励むようにします」と誓っております。そのあらゆる世界に広がるお心を感じとれるように、お香を焚くのです。また、お焼香を

通して仏様や故人と対話し、つながることができるともいわれていま

お仏壇が二つ

月命日のお参りをしていると、たまにお仏壇が二つあるお宅があり「二つ置いてもいいのでしょうか？」と質問を受けたことがあります。ご本尊が阿弥陀如来のお仏壇と、ご本尊がお釈迦様のお仏壇の二つを御安置していました。「お仏壇を二つ置いていると良くない」とそのお檀家さんが申しておりましたが、先述したように心豊かな生活の拠り所になつていれば良いので、二つあつても全く問題はありません。

南無阿弥陀仏、

合掌

これまでが

これからを決めるのではない

これからが

これまでを決めるのだ

藤代聡磨